



## カエルは雨が降ると、なぜたくさん出てくるの

### カエルは、晴れた日は、かくれている

カエルは、どれも、体にさわると、ぬれていて、ぬるっとした感じがしますね。

カエルは、体の表面にねん液を出して、皮ふがかかわないようにしているのです。ぬれたような皮ふを通して、カエルは空気（酸素）を体に取りこむ、皮ふからの呼吸もしています。なぜかという、カエルの肺呼吸は、イヌやネコなどと比べると、まだ、あまり発達していないため、皮ふ呼吸で、これをおぎなっているのです。だから、皮ふが乾燥すると、カエルは死んでしまいます。そのため、ヒキガエルは、昼は湿った土の中にもぐって過ごし、アマガエルなどは、木の葉のかげなどにかくれています。

### 雨が降ると、そこら中が湿り気たっぷり

雨が降ると、カエルたちは、大喜びです。水がたくさん降ってきて、どこもこれも、湿り気たっぷりで、体や皮ふがかわく心配はありません。だから、もう、日光や乾燥をさけて、かくれている必要はなくなりますから、みんな目につく所へ出てきます。

カタツムリやナメクジが、雨のときや、つゆどきによく目につくのは、同じ理由です。カタツムリもナメクジも、いつもぬれたような、うすい皮ふから呼吸をしているからです。

### なぜ、カエルは皮ふで呼吸する

動物の進化の歴史をみると、カエルは、水の中でくらしていた動物が、地上でくらすようになった最初の動物の仲間になります。そのため、子どものころは、水中でえらで呼吸し、おとなになると地上で肺呼吸をします。でも、カエルの肺のしくみは、まだあまり発達していないため、皮ふで呼吸をおぎなっています。（監修・今泉 忠明）

